

## 令和5年度スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会（第2回） 議事概要

1. 日 時：令和6年3月21日（木）14:00～15:15

2. 形 式：オンライン会議

3. 出席者：

（委員） 岡島委員、小川委員、帯野委員、黒田委員、小林委員、サコ委員、  
日比谷委員、平子委員、マルクス委員、米澤委員

（文部科学省） 奈良 文部科学戦略官、小林 高等教育局参事官（国際担当）、  
吉岡 参事官付専門官 ほか

（事務局） 水本 独立行政法人日本学術振興会理事、  
小谷 独立行政法人日本学術振興会理事、  
高見沢 人材育成事業部長、安藤 大学連携課長、  
安永 同課長代理 ほか

4. 概要

（1）令和6年度予算案について

文部科学省から「資料1 令和6年度予算案について」に基づき、説明があった。主な意見は以下のとおり。

・大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業で地域等連携型については、日本でこれから労働者がどんどん減っていく中で大切かと思うが、スーパーグローバル大学創成支援事業の採択大学は、大学の国際化、教育の質の向上や国際レベルの研究という点にフォーカスをしてきたと思うので、これまでの流れから少しずれると思う。大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業であれば、地域社会だけでなく、もう少し国際レベル、あとは、日本国内全体というもう少しマクロで見てもいいのかと思った。

・企業では留学生でも日本語ができる人を多く求めているというのが現状。スーパーグローバル大学創成支援事業の国際化ということで、英語の授業を作ってきたが、地域で求められる人材は、英語ではなく日本語ができる留学生となっているのがだいぶ方向が変わっているという印象を受けた。

・大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業で当初の要求額が60億円ぐらいあったが、色々な経緯で予算案が18億円になっていると思う。これから先、大学の国際化によるインパクトの大きさを考えていこうと思えば、恐らく、このくらいの予算規模だと足りない印象である。採択予定件数も地域等連携型で10件、海外展開型で3件というのが良いのかどうかということもある。これから実績を見ながら拡大をしていくことになるのだろうと思うが、当事業が来年度以降の大きな目玉になる可能性があるという観点からすると、1件当たりの予算の規模、または、予算の配分の仕方について適切性を考えて欲しい。

- ・大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業に関して、国内向けだけではなく、国際的なプレゼンスを示す上で、このプロジェクトを使うことが意図されているのかなと感じた。例えば Times Higher Education のようなランキングの世界でも、社会とのインパクトみたいなものを求めているし、SGU 全体のシンポジウムでも何のために国際化をするのかというところが世界的に問われてるという話が出てきていた。そのような観点から、幅広く様々なアイデアを得られるような形の柔軟な作りをして欲しい。
- ・大学側としては過度な要求をされても困ることはあるが、社会と競争していくにはある程度、マッチングファンド的な考え方というのはいり得て、全てを事業から出していただくだけではなく、社会と一緒にスキームやリソースをつくり、さらに発展してくような在り方というのもあり得るのではと思う。いずれにしても、今までとはかなり違う形で、より柔軟で、個性を認めていくような形が望ましいと考える。
- ・内なる国際化、ソーシャルインパクトはこれからの日本に非常に大事な事業だと思うが、やはり地域ということになると、地域の規模であるとか、自治体ということになると政治も絡む。そして、一番大きな産業、そのあたりがかなり一様ではないということ、ぜひ、いろいろな大学から手が挙げられるような多様な評価ということを工夫していただきたい。

## (2) 令和6年度事後評価について

文部科学省から「参考資料4-1 令和6年度実施事後評価に係る基本的方針」および「参考資料4-2 令和6年度実施事後評価に係る基本的方針（評価項目）」に基づき説明があり、その後「資料2-1 事後評価要項(案)」、「資料2-2 事後評価面接評価実施要領(案)」、「資料2-3 事後評価現地調査実施要領（案）」、「資料2-4 事後評価調書（案）」および「資料2-5 事後評価スケジュール（案）」に基づき事務局から説明があった。主な意見は以下のとおり。

- ・各大学から提出される内容が大変多岐にわたるため分量が多いものになっており、事務仕事が非常に増えているのは弊害だと思う。また評価側も大変であるため、ポイントを絞り、アピールすべきことを具体的に、明確に、端的に、簡潔に、各大学から記入してもらうと助かる。文章をたくさん書いてあることが、点が高いというわけではないという取り扱いをして欲しい。

- ・スーパーグローバル大学創成支援事業を、今後自主的に継続してもらうための気付きや学びのようなものが重要だと思うので、上手くいったことを、ベストプラクティスを含めて書くのはもちろん良いが、この10年間の取り組みで気付いたこと、もっとこうあれば良かったという振り返りや改善点の意見を伺えればと思う。そういう意見をしっかり持っている大学が実質的に継続していく、あるいは、次に続くプロジェクトをより実効性が高い提案に繋がられると思う。面談で学長、総長からちゃんご自身の思いを聞くということなので、そこもしっかり話を聞きたいと思う。

- ・事後評価において現地調査は必要と判断された場合ということになっているが、これはどのようなケースを想定しているのかを教えてください。現地に行って現場を見るというのは非常に大事なことで、書面からでは分からないことがたくさんあると思う。現地調査のスケジュール例で、学生との意見交換が70分あり、その後で質疑応答が70分あると

いうことは非常に大事だと思う。負担はかかるが、現地調査をある程度、積極的にやるといふふうに改めてはと思った。

・評価項目の内容はすごく良いが、特に良い点は、これまでの取り組みの課題と今後の計画という点で、この10年間を振り返り、今後、どういうふうにしていくかということが一番大切だと思う。

・これまで評価調書については、エクセルやワードを複雑に組み合わせて大学が提出しなければいけない仕組みになっていたと思うが、なるべく効率的に書類の提出ができるよう検討して欲しい。

・白紙の部分が多いと書き込まなければいけないのではないかという気持ちにもなってしまうことが多く、そのあたり、もう少し項目で分ける等の工夫があると良いと思う。また、資料2-2 面接評価実施要領の2. の出席者と進め方における、進め方の部分では、質疑応答15分とあるが、質疑応答は肝になる部分であるため、15分で足りるのかなということが、少し心配になった。

### (3) その他

「『スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会』の審議内容等の取扱いについて」（平成26年4月8日スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会決定）に基づき、非公開。